




活動プログラム	No.09	林業体験	
期待される効果	  		
プログラム概要	人の手によって植林されたスギやヒノキは材木として伐採されるまで枝打ちや下草刈りなどの手入れを必要とします。健康な林を育てるため間伐材を運んだり、枝打ち、玉切り体験などを行い、里山や自然に対する理解を進めます。		
対象	小学生高学年以上	人数	40人（1クラス）
時期	4月下旬～11月上旬	場所	美方高原林業体験場
金額	体験プログラム料金参照	スタッフ数	1クラス40人に2名以上

準備物	団体ごと	救急セット、行動食、虫よけスプレー
	服装 個人装備	軍手、長袖・長ズボン、帽子、リュック、タオル、水筒 カッパ（上下セパレート）
美方高原で レンタル可能な物		ノコギリ、ヘルメット、（雨であれば長靴）

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント
8:45	自然の家玄関前集合 服装確認、装備説明・受け渡し 林業体験場へ移動	持ち物や服装の確認、体調チェック ノコギリの扱いには特に注意させる 道路は右側通行一列で歩く
9:30	林業体験場到着→講師紹介 インストラクション 活動開始 切り倒し作業 順番に切口にノコを入れる 枝打ち作業 たま切り作業 運搬作業	ヘルメット、軍手は外さない 最後の切り倒しは指導者が行き、参加者は安全な場所に待機する 木の運搬の際は必ず2名以上で行う
11:00	活動終了→移動	
11:30	玄関前到着、装備洗い・回収	

補足ポイント

- 事前に林業について予習しておくことより効果的な学びとなります。
- ノコギリなどの刃物は危険な道具だということを必ず認識させて使用するようになります。
- 虫刺され対策で虫よけスプレーなどを事前に使い予防します。
- 緊急時は施設の車で対応することもできます。
- 林業体験場の木々の発育の状況により体験内容に若干の変更がある可能性があります。

活動 プログラム	No.09	林業体験
-------------	-------	------

予期されるリスク	リスクに対する対応
転倒	林業体験場付近はデコボコしているため転倒リスクが高い。走らないこと。道具の扱いに注意すること。
低体温症	防寒着やカッパを準備するよう伝え適度に厚着をさせる。気温が低い場合は、温かい物を準備し休憩をこまめにし、体の冷えを防ぐ。
ブヨ、アブ対策	虫よけスプレーなどで事前に対策
ノコギリの取り扱いによるリスク	両手軍手着用。作業中以外は必ず鞘に収めることを徹底させる。
頭部打撲等のリスク	ヘルメットの着用を徹底させる。
熱中症、脱水症状	塩分や十分な水分を準備するよう伝える。服装も調節を促し、日陰での休憩をとらせる。肌を露出させず、日焼け止めの使用を促す。
ハチ、ヘビとの遭遇	ハチやヘビとの遭遇した場合の対応を伝えておく。また林業体験場までのルート以外には入らせない。沿道のハチの巣の駆除。
天候不良	当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
林業担当者への依頼確認
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）
ノコギリを取り扱う際には両手軍手着用。作業中以外は必ず鞘に収めることを徹底させる。
現地フィールドでのリスク説明（ヘルメット、軍手は外さないこと）
活動中、移動時、足元に十分注意しはしらないこと。
衣服での体温調整を行うこと。
ハチ、ヘビと遭遇した場合は、刺激せず距離をとること。
間伐中また、木が倒れる前、木が倒れるときに待機する場所をしっかりと把握させる。
丸太、枝等運ぶ場合は必ず2人で運搬する。また、運搬中不意に手を離したり投げたりしない。